

教科	社会科
第4学年 『ごみとともに生きる～産業廃棄物のあり方について考える～』	
日時	令和8年6月18日(木)
授業者	西畑 郁希
本時のねらい	① ごみとともに生きるために大切な視点を考える。 ② 自分自身もごみ問題に責任がある主体であることに気づく。
キーワード	地域の社会的論争問題 産業廃棄物 苦しむ人々との出会い
授業の実際 (本時の子供の姿)	「ごみとともに生きるために大切なことは何か?」という学習課題に対して、「リサイクルする」、「ごみの分別に気を付ける」のような自分の立場だけでなく、「困っている人のことを考える」、「工場にも責任がある」のような社会の視点からも考える子供の姿が見られた。 終末部では、「この問題は、みんなには関係ないんだね?」という発問に対して、子供たちからは「自分たちも消費者として関係がある」などという声が上がリ、ごみ問題への責任があることに気づくに至った。
事後協議の概要	「ごみとともに生きるために大切なことは何か?」という学習課題は、子供たちに自分事として考えることを促したり、多様な意見を表出させたりするときには、有効であることが指摘された。他方で、この学習課題では、社会の仕組みを捉えさせることは難しいという意見もあり、本時で掴ませたい知識・思考方法に対応した学習課題を成立させることが重要であることを確認した。



